



伸びゆくわれらは

# あげひばり



文責 瀬田 扶美子

## 令和6年度 全国学力・学習状況調査結果分析

4月18日(木)に、全国約19,000校の小学校6年生と約10,000校の中学校3年生を対象に、全国学力・学習状況調査が行われました。この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上を目的とし、教科(算数・国語)調査と質問調査からなっています。各学校では調査結果をもとに、学習指導の充実や学習状況の改善を図っていきます。

以下に、本校の分析結果と今後の改善の視点をお示しします。調査結果から、ここ数年、湯田小児童の学力が安定していることが見て取れましたが、この結果をもとにさらなる改善を図っていきたいと考えます。

### ～ 調査結果から分かること・改善の視点 ～

#### ～ 国語 ～

- ・正答率は、県や国の平均正答率を大きく上回っていて、児童間の学力のばらつきも少ないです。
- ・特に「書くこと」の力が高いです。普段から、文章表現する、ノートにまとめる等の活動を意図的に仕組んでいる成果だと考えられます。その反面、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が他の領域と比較するとやや弱いので、自分の考えなどを記述していても、必要な情報が入っていなかったり、表現の仕方が十分でなかったりすると考えられます。
- ・理解していないのではなく、条件を満たしていない不完全な解答が見られたのは、事実と感想・意見とを区別して書いていないなど、伝えるための書き表し方に課題があると思われる。

手立て

記録する、要約する、説明する、話し合う等の言語活動を、授業の中に効果的に仕組んでいきます。ご家庭でも、子どもが説明する、子どもと話し合うなどの機会を意識して設けていただけたらと思います。

#### ～ 算数 ～

- ・正答率は、県や国の平均正答率を上回っています。
- ・理解していないのではなく、不完全な解答が見られたのは、深い理解を伴う知識の習得が十分でないため、これまでに学習した内容を関係づけられていない、活用できていないのだと考えられます。

手立て

日常生活と絡めながら、習得した知識・技能を実生活で生かすことができるように授業を仕組んでいます。

また、答えが合っていれば良いだけでなく、「どうしてそう思ったの」「どこからそう考えたの」という教師の問い返しを大切にして学びを深めています。このように、判断の理由や根拠を、言葉と数を使って自分の言葉で表現できる力を育てるよう、より一層指導を充実させていきます。

## ～ 児童質問調査 ～

学習意欲、学習方法、学習環境、生活面等に関する質問調査です。結果からは、希望を持ち、将来の実現に向け主体的に学ぶ児童の姿を見取ることができました。

- 自己肯定感が高く、将来の夢をもっている児童が多い。
- 主体的な学びができていて、先生に対しても良い印象をもっている。
- 人の役に立ちたいと考え、困っている人がいるときは進んで助けようとする児童が多い。
- 学習や特別活動の場面で、話し合い活動を多く取り入れていて、その活動の有効性を感じている児童が多い。

また、いくつか改善していきたい結果もありました。

- △家庭でのスマホやパソコンの使い方の決まりを、「あまり守っていない。」「きまりがない。」と回答した児童の割合がやや高い。
- △家にある本の本数が少ない傾向がみられる。
- △新聞を読んでいる子どもがとても少ない。
- △学校で学習したことは、実生活に生かせないと考えている児童が一定数いる。

家にある本の本数が少ない傾向にあるようですが、AI時代だからこそ必要となる、深い思考力・創造力・想像性などは読書の学びによって培われます。学校では、朝活動や授業で、読書の時間を保障したり、読書ボランティアの皆さまに読書の楽しさを伝えていただく機会を設けたりしています。また、10月28日より読書週間として様々な取組を企画しています。ご家庭でも、スマホやゲームから少し離れて、読書の喜びや楽しさを味わう機会を是非つくっていただけたらと思います。



今回の結果をもとに、湯田小児童の良さをさらに伸ばしながら、これからの予測困難な時代に必要となる問題解決能力等も培っていくよう、子ども達一人一人に寄り添いながら、日々の授業改善に努めていきます。

すべての児童の**ウェルビーイング**（心も体も、社会的にも幸せな状態）が実現するよう、ご家庭と協力して学校教育を推進していきたいと思えます。今後とも、ご理解ご協力をお願いいたします。